資料４

ごみ排出量の推計方法について

１　条件整理について

函館市（以下「本市」という。）における現行の上位計画は，第４次函館市一般廃棄物処理基本計画（令和７年３月）（以下「第４次一廃計画」という。），函館市次期廃棄物処理施設整備基本構想（令和８年３月）（以下「基本構想」という。），函館市循環型社会形成推進地域計画（第２期）（以下「地域計画」という。）があり，それぞれの計画でごみ量推計を整理しています。

基本構想では，第４次一廃計画の現状推計を基に算出されていますが，本整備事業では，循環型社会形成推進交付金（以下「交付金」という。）の活用を予定していることから，第４次一廃計画の施策影響を反映し，基本構想で優位性が高いと評価された処理システムを踏襲する案①と新たにトレンド推計を行う案②の２案にてごみ量推計を検討します。

また，ごみ量推計に用いる人口推計については，基本構想と同様に函館市人口ビジョン（令和６年度改訂版）で示された中位推計を用いることとします。

表１　各ごみ量推計案における条件整理

項目	案①	案②
条件	・第 4 次一廃計画における施策影響を反映 ・基本構想ケース②を踏襲	・第 4 次一廃計画における施策影響を反映 ・基本構想ケース②を踏襲
人口	函館市人口ビジョン中位推計	函館市人口ビジョン中位推計
推計方法	推計年度におけるごみ区分ごとの原単位は、R3～R7 の平均値を採用	R3～R7 の実績を基に、推計年度における、ごみ区分ごとの原単位をトレンド推計

２　ごみ量の推計について

各ごみ量推計案における，ごみ量の推計を行った結果を以下に示します。

第４次一廃計画と同様の推計方法を用いている案①と比較して，トレンド推計を行った案②の方が，ごみ排出量および処理量ともに少ない結果となりました。

表２　各案におけるごみ量推計の条件整理

項目			単位	案①		案②	
				R17予測値	R17～R31計	R17予測値	R17～R31計
計画処理人口			t	197,513	－	197,513	－
ごみ総排出量			t	78,054	1,034,115	72,254	941,304
	家庭系		t	45,499	571,599	38,566	461,833
		燃やせるごみ	t	28,317	336,178	23,829	266,123
		燃やせないごみ	t	4,975	62,607	3,717	42,351
		缶・びん・ペットボトル	t	3,354	44,992	2,949	38,366
		プラスチック製廃棄物	t	3,360	52,784	3,221	50,286
		プラスチック容器包装	t	2,921	47,463	2,863	46,254
		プラスチック使用製品	t	439	5,321	358	4,032
		可燃ごみ→製品プラスチック	t	295	3,517	251	2,812
		不燃ごみ→製品プラスチック	t	143	1,804	107	1,220
		粗大ごみ	t	434	5,734	376	4,334
		雑ごみ	t	289	6,215	325	6,689
		集団資源回収	t	4,771	63,089	4,149	53,684
	事業系		t	32,555	462,516	33,688	479,471
		燃やせるごみ	t	29,353	414,580	29,353	414,580
		燃やせないごみ	t	1,956	29,285	3,052	45,686
		びん・ペットボトル	t	972	14,552	1,051	15,731
		プラスチック容器包装	t	12	186	12	186
		し尿しさ，下水道しさ	t	261	3,913	220	3,287
処理量	焼却処理量		t	59,256	773,030	54,645	700,515
	資源化量		t	11,382	164,244	10,976	156,440
	最終処分量		t	9,144	118,837	8,518	108,429